



あるいは祖国への感傷旅行

# 一部屋半



2010年

6月5日(土)  
14:00開会

会費 500円 (日本ユーラシア協会会員 300円)

一部屋半——それが、疎開から「レニングラード」(現サンクトペテルブルグ)へ戻った両親と主人公の少年に割り当てられた住まいだった。急増する都市人口に対し、住宅建設が追いつかず、戦争で住宅事情はさらに悪化していた。複数の家族が住居を分かち合って暮らしていたのだ。夢見がちな少年は、学業では落ちこぼれだったが、大勢の女性と恋をし、やがて詩人として頭角を現すが、反体制の烙印を押されて裁判にかけられ、ついには国外へ追放される。

1987年にノーベル文学賞を受賞した詩人ヨシフ・ブロツキー(1940—96)の生涯をモチーフとして、自らも反体制的芸術家として作品発表の場を奪われていた幻の映像作家フルジャノフスキーが作り上げたファンタジー。実写とアニメを組み合わせて作られたこの作品について、監督は語る。「これは『ブロツキーについての』映画だとは思わないでほしい。この映画はブロツキーの文学作品やスケッチ、伝記の事項などに基づいてはいるが、何よりも、この作品のひらめきと靈感を与えてくれたブロツキーの散文によりインスパイアされたものなのだ」

2008年/ロシア/125分/ビデオプロジェクターによる上映、日本語字幕付き  
出演=アリサ・フレインドリフ、セルゲイ・ユルスキー、グリゴリー・ジチャコフスキーほか  
脚本=ユーリー・アラポフ、アンドレイ・フルジャノフスキー/監督=アンドレイ・フルジャノフスキー/  
撮影監督=ウラジーミル・ブリリャコフ/製作=アンドレイ・フルジャノフスキー、アルチョム・ワシリエフ

主催 日本ユーラシア協会 共催 エイゼンシュテイン・シネクラブ (日本)

実写とアニメで綴る  
亡命詩人ブロツキーの  
魂の遍歴

会場

日ソ会館 2F

世田谷区経堂 1-11-2 ☎ (03) 3429-8231

